

上宮津公民館だより

第62号
平成26年
7月18日

全員の参加で

公民館長 智原芳明

先日のこと、自動車を運転していたら、カーラジオでこんなことを放送していた。奈良の大安寺だったと思つたが、竹に感謝し、供養するお祭りを行つてゐるとのことだ。

今時そんなのんきな事をしとる所があるもんだ。おまけに「竹でいただく振る舞い酒は美味しい」なんて。よくもまあ時が止まつたような事を言つてゐる祭りがあつたものだ、呆れかえつてきました。

(1) 車から降りて、我に返つた時、「しかし、何でかなあ」「いつから竹を敵のように思うようになったのかなあ」自分の見方の変わりように理解が出来なかつた。この竹、今は生活様式や文化の変化からあまり活用されなくなり、生え放題、茂り放題。たまたま藪に入るのは竹掘りくらいなもの。幸い今年はいノシシが

喰い残す程の豊作でいくらかは竹の恩恵に感謝をしたのではないかと思う。しかし、ほんの少し前までは、日用雑貨から装飾品などの竹細工から、建築資材に至るまで身の回りのありとあらゆるものに使われていました。ところが今では旬の食材として重宝されている筍以外は里山の厄介者になつてしまひ、人が立ち入らなくなつたのを待つていたかのように生え茂つています。何故にこんなにも他の草木を侵食して大きく育つのか我々から見れば迷惑な事ですが、竹が大きくなれるにはそれなりに理由があるのです。その正体は「節」です。なるほど節のない竹など見たことがありませんし、無ければ簡単に折れて割れてしまひます。仮に折れたとしても節があれば、そこから脇芽を出して元気に育

ちます。竹の成長にとって、節の存在は欠かせないものなのです。

「節の存在」は人間社会にも通じるのではないのでしょうか。

古来、日本文化には、桃の節句、端午の節句など子どもの成長を祝う行事や、喜寿、米寿等を人生の節目としてお祝いをすることが定着しています。皆様の中にも通り過ぎた過去を振り返つてみたとき、あの時が転機だつたんだと思う事が一つや二つあるのではないかと思います。

その意味で今年度が、上宮津地域にとつては大きな転機を迎える「節目」となる年となるのではないかと思います。

ちなみに今年度実施が予定されてゐる事業だけをとつてみるも例年を外れて多くあります。①上宮津小学校の閉校記念の一環として行われる様々な事業があります。

◎盆踊りを小学校で盛大に行う予定です。

◎閉校記念に合わせて記念誌部会で記念誌を発行します。

◎記念行事を行うイベント部

会と共同で、記念碑部会としては、二宮尊徳や石碑などを集合させて記念碑を造る事にしていきます。

②市制六〇周年記念事業として、上宮津の歴史年表を作る取り組みをします。役割分担として公民館としては、昭和二六年の市町村合併以降の出来事を古い「公民館だより」や写真等を手掛かりにして調査をしています。

③公民館が文部科学省の窓口となつて取り組む「マイ防災マップ」作り事業も二年目に入り、今年度は、未実施の自治会の皆様にお世話になる予定です。

安心、安全で、希望の持てる上宮津を次世代に引き継ぐためには、破竹の勢いとまでは行かないまでも、自然豊かな地の利を生かした、上宮津の良さ、らしさを、美しさを伝統として皆様と共に培い、根を張つていくことが上宮津の魅力を継承していくためには最も大切なことではないかと、小学校の閉校と市制六〇周年にあたり思いを新たにしたいところです。

元気な上宮津であるために

上宮津地域会議 会長 細見 節夫

今年は大変忙しい1年になりそうです。

今年が宮津市制60周年で、おりしも上宮津小学校が今年度いっぱい閉校になります。

小学校の閉校は当初宮津市の計画では24年度からとなっていたのですが、地域おこしに逆行するとして存続の道を探ってきました。しかし将来的に児童数の増加が見込めず閉校は時代の流れとしてやむを得ず、27年3月末をもって140数年の幕を引くことを余儀なくされました。

上宮津地区も過去から21夢会議などの組織を立ち上げ、全国の地域おこしの先進地を数多く視察研修し、地域活性化の挑戦を行ってきていますが前途は一段と厳しさを増しています。

地方の農村集落が限界集落化し、このままでは地方都市が崩壊し日本全体が危うくなるとの危機意識は、ようやく国の政治の場でも論議されるようになりましたが、時は遅すぎると実感しています。

昨年末ごろからわが国の少子高齢化、出生率の低下と人口減少の大波が押し寄せている現実がマスコミでも大きく取り上げられるようになりました。

わが国の高齢化率は現在25%ですが、2060年には40%を超え、15歳から65歳以下の生産年齢人口も現在の7900万人から4400万人まで減少し、出生率も大きく低下していくことが明らかになってきています。高齢化の海外比較において2060年時点で40%を超える国は日本以外にはなく最高でも30数%で諸外国は頭打ちになるといわれています。

高齢化の速度が欧米に比べて4倍以上のスピードであり、また若い世代が結婚せずに出生率の低下のスピードも速いためわが国は想像をこえる危機的状況が迫っているといえます。

この流れの根本原因は、若者が大都会東京を目指して人口移動し、集まった若者が子供を産まない流れであることが、人口のブラックホール現象といわれているメカニズムにあると指摘されています。

まさにそのとおりで、こうした若者の人口移動の流れを止めない限り、地方の衰退とわが国全体の活力低下を防ぐことはできないと思います。

こうした現実の時代認識に立ってこれからの上宮津地域の地域起こしを考えると、社会の流れを少しでも変えていくためには危機的な状況が現実的に迫っている地方から行動を起こしていく必要があると考えています。

25年度からスタートした私たちの上宮津2022年ビジョンは、以上の社会的な動きを踏まえたものであり、マイ防災マップの取り組みやサロン・ド・カミヤツ、農業会議などの取り組みは地域起こしの具体的な施策です。

小学校の閉校についても地域起こしの観点を強めて取り組みます。

地域の皆様の理解と協力を得てビジョンの施策の協働的推進を図ってまいりたいと考えています。

自治会長になつて

松縄手自治会長 中寫陽太郎

このたび松縄手自治会長を務めることとなりました。

二〇〇九年度から二回目ではありますが、退職すぐの、地域のことを知らない「しんまい」であり、会員の皆様のご協力を

いただき、この務めを果たすことができればと思うばかりです。

どうぞよろしくお願いいたします。

自治会名の「松縄手」はいうまでもなく江戸時代、宮津城下から京へ向かう京街道の出発地点にあたり、江戸時代前期（京極氏時代）の絵図に松並木が描かれています（『宮津市史絵図編』）。そして、藩主阿部氏が宇都宮（栃木県）へ移るさいの大目付の記録「元禄十年（一六九七）宮津御城渡就御用覚帳」に

は、「行列松縄手迄押参」と

「松縄手」の呼称がみられることから、遅くとも江戸時代中期にはここを「松縄手」と呼んでいたことがわかります（『宮津市史史料編第二巻』）。

初期から在住の方からお聞きしたところでは、「松縄手自治会」の名称は自治会発足当初、初代会長を務められた故山下三郎氏の発案によるものだったとのことです。

このように松縄手は、宮津の出入り口にあたる場所であり、そして今京都縦貫自動車道の出入り口でもあるということがいえるでしょう。

「夢」にはなりますが、この松縄手の街道に松並木を再現することができれば、当自治会さら

に上宮津を代表する景観の一つになり、また旅人を宮津にいざなうシンボルにもなるのではないかと、との思いをもちながら、少しでも自治会のお役にたてればと思しますので、よろしくお願いいたします。



松縄手古写真

『与謝郡誌』（大正十二年発行）

掲載の「宮津城外松縄手」

上宮津 盆踊り大会

開校以来一四〇年の歴史に幕を閉じる上宮津小学校の記念行事として今年の盆踊りは、小学校のグラウンドで行います。

八月十四日（木）午後五時から特設ステージで各種の出し物を行い、それに合わせて、食べ物や飲み物、ゲーム、金魚すくい、射的などたくさん準備をしています。

日が暮れて、ちようちんに灯が入ると昔懐かしい映像を大型スクリーンで見えます。

最後は太鼓の音に合わせた上宮津音頭や抽選会で盛り上がっていました。是非、家族そろって来て頂きますようにお待ちしています。

「みえる化」と「女子力」で

鳥が尾自治会 生駒 正子

「住民の生活環境の充実及び社会福祉の増進に寄与し、住民相互の親睦と理解を深め、安全で明るく住みよい町作りに努力します。」

自治会規約にのっとっての就任挨拶が、会長職をお引き受けしての初仕事でした。

重責と不安の中ですが、大切にして歩んできたことは、情報共有と共同体制の確立です。

集金を兼ねた定例会に、地域で一ヶ月間に起こった出来事を「お知らせ」としてまとめ、配布しています。

何が起り、どのように対処しようとしているのか。まずは知っていたら、第一と考える「こんな出来事が皆さんの協力で成功したんだ」「こんな計画が進んでいるのだ」等、情報を共有することが、「親睦と理解」に近づく方法のひとつと考えたからです。みえる化の努力を重ねています。

もう一つは組織体制の確立です。

「みんなが役員」という思いで、本部四役だけでなく、部長を中心にみなさんに協力いただいています。

特質すべきは、会長が女性という点もあり四役会議は女性が八〇%という体制で話し合いを重ね、具体的な詰めや取組では男性役員さんをメインに、実力を発揮していただいで、今日まで歩んできました。

地域は少子高齢化の最先端。「生活環境の充実と社会福祉の充実」という自治会規約の達成のためには、まだまだ厳しい現実が立ちまかります。

地域の状態をみる目をもって、「みえる化」と「女子力」で、この一年、次々押し寄せる課題解決に取り組んでいきたいと思えます。

子どもの育ちは体作りから

上宮津保育所所長 橋本陽子

広島県に生まれた私が、縁あって宮津に移り住んでから早二〇年が経ちます。

そして、初めて上宮津保育所に赴任したのが四年前でした。

現在、上宮津保育所は二歳児から五歳児まで、全員で十三名の子どもたちが元気に過ごしています。

我が園では、「子どもの育ちはまず体作りをモットーに、マラソン・体操・雑巾がけ・リズム遊びなどを日々の保育に積極的に取り入れています。

雑巾がけは、足腰の力や体力をつけることに大変有効です。「雑巾がけ」を辞書で調べると、『(比喩的に)下積みの苦しい作業。経験。』とあります。

確かに、初めて雑巾がけをする二・三歳児たちは、膝を突いたり、疲れて途中で止まったりしてつらそうなのですが、次第に、決められたコースを一度も止まらずにかけ終えることが出来るようになるのです。地道な下積

み時代があつてこそ、体も出来る上がるのですね。

そして、出来るようになったことが自信につながるのです。

豊かな自然に囲まれた上宮津をお散歩するのも、子どもたちの大好きな活動の一つです。

新しい発見を求めて散策に出かけたり、「少し遠くまで頑張ってみよう」と、今福方面や鳥が尾方面に行ったり、散歩先で友達のお家を見つけたたりするの、も楽しみの一つです。

来年度、上宮津小学校が閉校となり、園庭から学校にあがった先輩たちに手を振ることが出来なくなるのがとても残念です。しかし、上宮津で育ったことに誇りを持って就学を迎えられるよう、保育所で十分に体作りをし、自己肯定感を持って巣立できるように、職員一同、日々、心に留めながら保育しております。今後、地域との連携として、温かく見守っていただきますよう、よろしくお願ひします。

閉校を前にした学校の様子から

上宮津小学校 教頭 小巻正敏

上宮津小学校では、来春で閉校することを折に触れて子ども達に話しながら、授業はもとより様々な行事に取り組んでいます。

遠足では、「上宮津の地域を知ろう」と今福の滝や辛皮に行き、みんなで豊かな自然を堪能しました。また、地域の皆様に「ご支援・ご協力をいただいて、緑の少年団活動や製茶作業、田植え体験なども行いました。上宮津地区駅伝では、小学校としての参加が今年で最後ということ、全校児童で出場し、襷をつないで走りました。様々な行事が終わると、「この行事も上宮津小学校では最後の行事なんだな」という寂しさを感じます。

さて小学校では、来春の統合がスムーズなものになるように、上宮津小学校

上宮津の地域を知ろう



今福の滝

との交流をしています。

四月の、学校全体の交流会ではお互いの学校紹介や校歌を披露しました。

「大勢の宮津小学校児童の前で大きな声で歌えるかな」と心配しましたが、自己紹介も校歌も大きな声で披露し、改めて、「上宮津小学校の子ども達は凄い」と実感しました。

五月には、宮津小学校運動会に参加し、競技にも出場しました。さらに、各学年ごとの交流会も実施しています。

閉校まで、残された日々を大切にし、子ども達全員に「上宮津小学校で学んで良かった」と言ってもらえるように教職員一丸となって頑張っています。

地域の皆様にも、ますますのご支援・ご協力をお願い致します。

今日も校庭に子ども達の元気な声が響いています。

就任のご挨拶

大西 真由美

四月一日より公民館主事として働かせていただいております。松縄手地区の大西(旧姓品川)真由美です。

上宮津で生まれ、上宮津で育ち、上宮津から一度も出ることなくもつすく四〇年になります。

初め、主事になるお話をいただいた時は、私なんか出来るだろうか…と、受けることを悩みました。が、独身の頃からボランティアで盆踊りや文化祭の手伝いをして公民館には馴染みがありましたので、大好きな上宮津のために微力ではありますが、何か自分出来ることであつて役に立てるなら頑張ってみようと思いました。

こんなに長く上宮津に住んでいるのに、窓口に來られる方のお顔やお名前がわからないことがあります。早く覚えて私のことも覚えてもらえよう頑張ります。

一人息子も今年小学一年生になり、公民館で仕事をしたいという、体育の授業でグラウンドを走る姿

が見えたり、休み時間に元気に遊ぶ笑い声が聞こえてきます。公民館職員の特権です。

でも、この光景も今年度いっぱいまで終わってしまうと思うと寂しいです。

まだまだ不慣れで何かとご迷惑をおかけすることも多々あるかと思ひますが、楽しく元気な上宮津になるよう頑張りますのでよろしくお願ひします。



趣味はお菓子作り

御寄附頂きました

快適に座れます

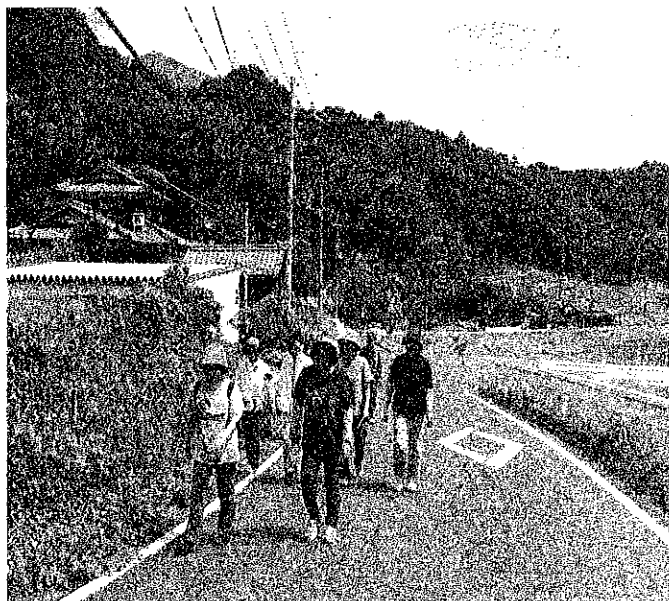
現在公民館で使用中の座敷テーブルが古くなり、表面が傷つき、穴のあいたものや、脚が折れたものなど使用できないものが次々に出て困っていましたところ、魚屋町の高島屋旅館様のご厚意で二〇脚寄付をして頂きました。

これで大人数の会議や文化祭も心配することなく実施出来ます。また、喜多地区の方より夏冬座布団二六枚を寄付していただきました。これまで夏場は直に畳で我慢して頂いていましたがこれからは、爽やかな肌さわりの良い座布団をご利用いただけます。



水無月ウォーク

上宮津健康広場 6月8日



日本人の平均寿命は
 男性 79.94 歳、女性 86.41 歳
 それに対して、健康寿命(介護などを必要とせず、自立して日常生活のできる期間)は
 男性 70.42 歳、女性 73.62 歳であり、
 平均して約 10 年~13 年は要介護状態となります。(7/11 読売新聞)

歩きで、健康寿命を伸ばしましょう

政府が分析したショッキングな記事です

上宮津地区駅伝

6月15日

大会結果

自治会対抗の部
 優勝 喜多自治会
 準優勝 小田自治会
 第3位 鳥が尾自治会

オープン部
 オープン部
 松縄手自治会
 赤松
 黒松
 ドリーム
 小学生全学年
 上小PTA・教員合同チーム

第三一回上宮津地区駅伝競走大会は、好天に恵まれ、自治会五チーム、オープン参加五チームの一〇チームが健脚を競いました。しかし、少子高齢化のありを受け、今年から鶴亀橋で折り返すコースに短縮されました。また、上宮津小学校にとっては閉校を控えた最後の駅伝大会でもありました。



第4回サロンド・カミヤツ

6月29日

今回が四回目となるサロンド・カミヤツが、上宮津地区公民館で七〇人が参加して行われました。この日は、早朝から作って準備をした、おこわや煮物、ソーメンなどの料理で昼食をしました。

午後は天橋園の職員様による色付のカードを使った足の運動や、手の指を使った運動をゲーム感覚で楽しみました。記憶力と運動感覚を脳に刺激を与える事が認知症予防に効果があるというものです。

今回から、男性の参加が出来ることになりました。次回は大勢の男性参加をお待ちしています。



短冊に思いを込めて、吊りました

公民館運営審議会委員名簿

彦坂 好幸	小田自治会会長
細見 節夫	上宮津自治連合会会長 喜多自治会会長
奥野 利貞	今福自治会会長
梅本 吉彦	天神自治会会長
生駒 正子	鳥が尾自治会会長
中嶋陽太郎	松縄手自治会会長
細見 政寛	上宮津財産区管理会会長
岡 伸侍	(合) 大江山スキー観光代表
杉田喜美代	市社協上宮津支会長
吉岡 俊子	上宮津小学校校長
橋本 陽子	上宮津保育所所長
酒井 勝明	民生児童委員常務
藤田 淳志	上宮津体育協会会長
松岡 照幸	宮津市スポーツ推進委員
粉川 宗久	上宮津21 夢会議代表
山田 浩士	上宮津保育所保護者会会長
岡本 剛	上宮津小学校PTA会長
福井 俊明	上宮津青少年後援会会長
谷中 武司	鳥が尾青少年後援会会長
平野 治	千歳会会長
福井 愿則	今福福寿会会長
関野 掲司	喜多城倶楽部部長
粉川 紀子	上宮津自治連合会事務局
智原 芳明	上宮津地区公民館館長
大西真由美	上宮津地区公民館主事

青少年体験活動推進委員

田中 了	小 田
細見 秀史	喜 多
宮本 真人	喜 多
福井 俊明	今 福
高奥 信也	天 神
斎藤 和子	天 神
舟橋 祐紀	鳥が尾
品川 幸治	鳥が尾
松岡 照幸	松縄手

平成26年度の主な行事と公民館運営審議会委員、および、公民館活動推進委員、青少年体験活動推進委員の皆様です。

お世話になります但よろしくお願ひします。

本年度の公民館事業

☆地区全体

盆踊り大会 8 / 14
 敬老会 9 / 21
 運動会 10 / 12 (予備日 10/19)
 農業文化祭 11 / 8、9
 健康広場 4~5回 / 年間

☆青少年体験活動

子どもいきいき体験活動 随時
 新春お楽しみ会 1 / 10

☆講演会・講習会

老人会健康づくり講演会 7 / 30
 一般教養講座 10 /
 しめ縄づくり講習会 12 / 6
 囲碁大会 2 / 11
 男の料理教室 3 / 1

☆同好会・サークル活動

陶芸教室 毎月第4土曜日
 囲碁教室 毎月第2土曜日
 太極拳 毎月第2金曜日
 バドミントン教室 毎週火、土曜日
 しろやまコーラス 毎月第3水曜日

公民館活動推進委員

梅溪 康夫	小 田	上家 春美	小 田
寺下 博文	喜 多	細見 重彰	喜 多
長林 三代	今 福	奥野 敦	今 福
鈴木 正義	天 神	堀口 義行	鳥が尾
大西 高広	松縄手		